

6 萌芽の植替え

萌芽は、根から掘り取り、別の場所に植え替えることができます。

掘り取る時期は、10月～11月の期間、または3月下旬～4月の期間に限られます。

掘り取るときに、萌芽の根の方向を確認し、根の皮を傷つけないように離れたところにシャベルを入れ、萌芽の幹前後10cm程度の根を切り、掘り取ります。

掘り取る根の太さは、剪定鋏で切れる程度(1cm程度)が適しています。



掘り取った萌芽は、3月～4月の間に植付けます。

植付け後は、萌芽の根元に日光がよく当たるように、刈払いを小まめに行ってください。



ウルシの木を売りたいときのご相談先

岩手県浄法寺漆生産組合

TEL 0195-43-3172

掻き取りが終わったら伐採するように
事前にご相談ください。

耕作放棄地へのウルシの植栽
その他ウルシに関するご相談先

二戸市漆産業課

TEL 0195-38-4472

ウルシの植栽にかかる補助金や
ウルシの苗木購入のご相談先

浄安森林組合

TEL 0195-38-2721

二戸地方森林組合

TEL 0195-23-3748

本リーフレットの作成にあたり、御協力・御助言頂いた
二戸市浄法寺町の工藤竹夫氏に厚く御礼申し上げます。

お問い合わせ先

岩手県北広域振興局農政部

二戸農林振興センター林務室

〒028-6103 二戸市石切所字荷渡6-3
TEL 0195-23-9204 FAX 0195-25-5652



このリーフレットは、二戸農林振興センター林務室が平成28年度地域経営推進費で作成したものです。

漆林伐採後の萌芽更新方法

漆林の
栽培管理に
ついて



岩手県北広域振興局農政部
二戸農林振興センター林務室

1 はじめに

このリーフレットは、ウルシ林を萌芽更新により適切に維持・管理する方法をまとめたものです。

2 萌芽更新とは

漆の掻き取りが終わったウルシの木は切り倒すことで、切り株や根からの萌芽の発生が促進されます。

萌芽更新は苗木代や植付け経費がかからず、萌芽の周辺に生育する雑草の刈払いなどの保育経費だけで済むなど、経済的かつ効率的な施業です。



3 萌芽管理の留意点

萌芽は切り株や根から発生します。

萌芽は日当たりが良い箇所に発生するため、掻き終わった木を切り倒したときは、きちんと片付け、地表を覆っているササ類を取り除くことが必要です。

また、掻き終わって切り倒した木を片付けるときは、人力作業で行うことをお奨めします。



4 仕立て方法

(1) ウルシの木の伐採

掻き取りが終わったウルシの木は、当年秋から翌年の春の彼岸前間に地際から切り倒します。

その後徐々に萌芽が発生してきますので、切り株の周りの根から出た萌芽を残して、育成します。

(2) 萌芽の選定

萌芽の中で、力を入れて倒してみても、簡単に倒れるものや、根が張っている感触がないものは、切り取ります。



萌芽の根が張っているかの確認方法として、萌芽に体重をかけて倒す方法がある。



倒れる萌芽樹の根。横の2方向にしか根が張っていない。倒れない萌芽樹の根は多方向に張っている。

(3) 萌芽の形態による仕立て方法

萌芽は、切り株付近に株立ちで発生する場合と、1本で発生する場合があります。

株立ちしている萌芽は、1株の中から、太くて丈夫な萌芽を2~3本選び、残りの萌芽は切り取ります。

残した萌芽の根元直径が3~4cmに育ったら、生長の良い1本を残し、残りの萌芽を切り取ります。

切り株から遠く離れて発生する1本立ちの萌芽は、太くて丈夫な萌芽を選び、残りの萌芽を切り取ります。



(4) 萌芽の切り取り方法

萌芽は、刈払い機で根元から刈払います。

作業は、2年目以降に行います。一度切り取ったあとも、また、新しい萌芽が発生しますので、小まめに刈り取る必要があります。



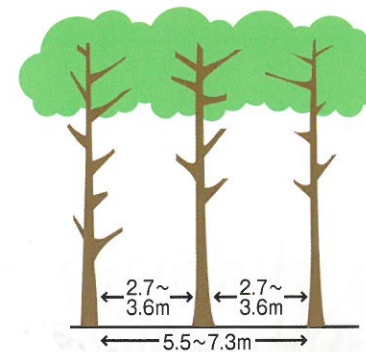
整理後

5 保育管理の方法

萌芽の生長とともに、周辺の雑草やかん木も生長します。雑草等の刈払いを怠ると、萌芽が良好に育ちません。

刈払い作業は、4~5年間必要です。刈払いする時期は、5月~6月上旬と、7月~9月頃が適しています。

萌芽発生後10~15年後までに、ウルシの木の間隔が3m程度になることが理想ですので、萌芽の数が多いようであれば、刈払いしながら本数調整を行っていきます。



ウルシの木は枝が生長し、少しでもお互いに触れ合うと、生長が止まります。木と木の間隔を適切に維持することが重要です。

木の間隔を約3m空けることで漆掻き作業も効率的に行えます。